日本小児歯科学会九州地方会

Newsletter

平成15年9月25日発行

日本小児歯科学会九州地方会会長挨拶

日本小児歯科学会九州地方会会長　瀬尾　令士

日本小児歯科学会九州地方会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。昨年4月より本川渉会長の跡を継承して九州地方会会長の重責を拝し、早1年6ヶ月を経過いたしました。会長就任時、会員の皆様に対しご公約いたしました3項目の仮題目標の実施を目指してワーキングチームを設置し、協議且つ検討してまいりました。

今日このニュースレターの書面をもって、諸事項に関してご報告し11月に開催されます第21回九州地方会総会においてご承認を賜りたいと存じます。

1）20周年記念事業（式典、記念誌）の実施

平成14年11月3日、第20回地方学会と開催して福岡において多数の参加者の中に厳粛かつ滞りなくとり行われました。また翌年4月には20周年記念誌を無事発刊し皆様のお手元にお届け致した次第です。

2）県代表（幹事）の選出方法の確立

幹事は、大学代表幹事と県代表幹事から構成され、県代表幹事の選出に際しては各県下の会員の皆様より推薦によって選出される事と致しました。現在平成16～17年度の役員選出時より導入すべく準備いたしております。

3）地方会事業の再検討及び繰り越し財政（予算）システムの導入と実施

今後の地方会活動の在り方を展望する上で会員を対象としたアンケート調査を実施致しました。これらの結果を参考として今後の学会活動、内容、形式、開催日時等について検討して未来に向けて明るく有益な学会を構築してゆきたいと思います。また、地方会財源を豊かにするため、繰り越しシステムを導入して毎年10万円を積み立て、地域での学会開催時や非常時での資金不足のときに、一定の申請書類に基づいて厳格な審議による役員会員の承認を得て流用することと致します。

現在、第19回地方学会、第20回地方学会、第20周年記念事業などの余剰金と第21回地方会の積立金を合わせて約100万円の財源を確保する事が出来ました。これらの資金は今後学会のために有意義かつ公平に流用されますことを切望いたします。最後に4年間に及んで多大なるご理解と真摯なるご支援、ご協力を賜りました福岡歯科大学小児歯科学講座の本川渉教授を始め、医局員の皆様、また地方会役員の各位に対して心から深く感謝を申し上げます。今後、九州地方学会が会員のために会員による会員の全員参加によって益々発展する事をお祈りすると共に会員皆様のご支援とご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

新顧問挨拶　～九州地方会とともに歩んで20年～

九州大学名誉教授　中田　稔

今春をもって、1979年九州大学歯学部の初代教授として小児歯科学講座を開設して以来24年、さらに母校の東京医科歯科大学小児歯科学講座の大学院生として、小児歯科学を専攻してから数えると、39年にわたる現役生活を終えることになった。

ほぼ40年の間、小児歯科も、大きく言えば日本そのものも、いろいろな凸凹道を歩んできたような気がする。しかし全体的には、上り坂の方が多かったせいか、大変な思いをした気はしてない。むしろ、いつもチャレンジしているような気分で過ごせた様に思う。

私が歯学部6年生のとき、当時週1回朝早くに小児歯科学教室（1957年に発足）で行われていたドイツ語の小児歯科の教科書を輪読する会に参加していた。そのお陰で、1963年、日本小児歯科学会発足の日、椅子を運んだりの下働きをしたことを思い出す。大学人としての出発の日であった。まだわが国には、小児歯科の看板も無く、大学の小児歯科には列を成すほどの子どもの患者さんで、溢れ返った。新患係の日などは、朝診療室に行くと既に何十枚もの新患カルテが積まれていた。急性症状の処置と、親御さんに直ぐには治療できないので、半年か1年くらい待つことになる旨、手早く納得させうるかどうかが、大事な役目で、ちょっと要領が悪いと、長々と時間がかかって看護婦さんから睨まれたものである。

しかし、教育・研究・臨床いずれも、すべてが新鮮で、いつも社会の期待を受けているような、とてもやり甲斐のある毎日であった。

九大に着任して直ぐに、当事、福岡歯科大学の教授であった吉田　穣先生らと、九州の小児歯科専門医を目指す志高い先生方といっしょに、九州小児歯科集談会を立ち上げ、熱心な活動が展開した。今でも全国的に見て、小児歯科専門医が一番多いのはこの九州ではないだろうか。その後、日本小児歯科学会が各地方会を設定する段取りが進み、この九州小児歯科集談会が母体となり、円滑に九州地方会が設立されたわけである。

私は、元来移り気で、人が未だあまりやっていないことに関わることが性分にあっているようだ。これは言い訳にもなるが、発足の段階までは、おおいに汗をかくが、一旦始動し始めると、次のことへ関心が移ってしまう傾向があり、結局他人任せになってしまうのである。幸いにも、熱心な後輩達が次々と学会を盛り上げて下さり、今や、臨床に専念する開業

医の方にその運営基盤が移り、小生も密かに待ち望んでいた状況になったことは真に喜ばしい限りである。

さて、今回の退官に際し、元来の性分が嵩じて、今まで夢想していた機会が与えられることとなった。7 月 2 日に上海の同済大学顧問教授並びに同大学児童口腔医学研究所顧問として、上海に来ている。今、ここで中国小児歯科学会会長の石　四箴教授をはじめ、大変やる気十分のスタッフ達と一緒に、仕事をしている。今後は、日本との学術交流の橋渡しは勿論のこと、中国の児童口腔医学発展のため多岐にわたる活動を展開したいと考えている。

最後に、これまでの会員皆様のご厚誼に深謝するとともに、九州地方会の益々の発展を祈念申し上げます。

新任教授挨拶

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科健康科学専攻
発生発達成育学講座口腔小児発達学分野　教授　山﨑 要一

平成15年2月1日付けで、鹿児島大学歯学部小児歯科学講座の教授に着任致しました。4月1日より医歯学総合研究科として医学部との合同組織に改組され、また、10月の医歯病院統合を控え、歯学部大変革の中で日々を送っておりました。小児歯科学会九州地方会の会員の皆様には、ご挨拶が遅れまして申し訳ありませんでした。

さて、小生は昭和58年3月に九州大学歯学部を卒業後、本年3月に九大を退官されました中田　稔教授のもとで小児歯科学教室の大学院生として、歯科医師の第一歩を踏み出しました。小生に与えられたテーマは、「下顎運動を通して小児の咬合機能の発達を調査すること」でしたが、当時は小児の下顎運動を6自由度で測定できる市販の計測装置は無く、プログラム開発のためのコンピューターも現在とは比較にならない程、性能の低いものでした。しかし、たまたま幼少のころより、一見何の関連性もない器機を組み合せ、工夫しながら一つの機能を持たせるようにすることを得意としていたため、研究室に既設のTI990コンピュータ(メモリー64KB)と3次元計測装置D−SCAN、そして買って頂いたばかりの発光ダイオードを使った非接触運動計測装置セルスポットシステムを組み合せて測定系を構築し、また、教養部時代に単に面白かったので身に付けていた線形代数の知識が、3次元座標値の解析プログラムを書く上で非常に役立ちました。これらが一つに結びついた結果、当時としては世界最高水準の小児用6自由度下顎運動測定システムを完成させ、九大小児歯科の下顎運動研究の基礎を築く事ができました。

さらに、臨床では何でもできる小児歯科医をめざし、通常の歯科治療をはじめ外科処置や障害者歯科治療、そして何よりも発達期の歯列咬合の育成に魅せられ、その治療に情熱を注ぐ中で様々なオリジナル装置や手法を考案してきました。

こうして20年が過ぎ、良き師、良き後輩たち、そして良き患者さんに恵まれ、一小児歯科医として自分なりの考えがまとまって来たため、自己の存在を世に問うてみたくなり、鹿児島大学の門を叩いたことが今回の結果につながりました。

慣れ親しんだ九大を卒業し、南九州の地で自分なりの小児歯科学、小児歯科医療を模索することになりましたが、この地に縁もゆかりもない小生のごとき臨床医に光を当てて下さり、あたたかく迎えて下さいました鹿児島大学歯学部の皆様のため、そして小児歯科学発展のために力を尽くして行きたいとの思いが、錦江湾からそびえ立つ桜島を眺めていると湧いてきます。

まだまだ不慣れで行き届かない点も多々あろうかと存じますが、九州地方会の皆様には今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

第 21 回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会のご案内

テーマ:「地域を育てる小児歯科」
会期:平成 15 年 11月 13 日(木)
場所:長崎県歯科医師会館　〒852−8104　長崎市茂里町3-19　　TEL　095-848-5311、FAX　095-846-0175

大会主旨

子供たちが健康で生き生きと育つには,子供とその親を含めたその地域全ての人々の生活を支援するシステムの存在が不可欠です。これらの生活支援システムを構築し,効率的に運営していくためには、住民の生活に関する多くの専門家の関わりが重要です。小児歯科学会地方大会として、「小児の口の健康つくりを通じて，地域の子供の生活を支援していくこと」をアピールしたいと思っています。

基調講演 1:「加齢と発達にかかわる歯科臨床を通して考えること」角町　正勝(長崎市　つのまち矯正・小児歯科医院)

基調講演 2:「口腔機能と心の発達支援―口を育てる医療(口腔育成)から口から育つ心と身体の支援(口腔成育)へ」佐々木　洋(東京都　UTAKA DENTAL OFFICE)

教育講演:「う蝕の病因論から見た小児の口腔衛生指導」藤原　卓(長崎大学大学院医歯薬総合研究科教授)

特別研究報告:「長崎市における地域う蝕予防管理システム研究事業結果と考察」川崎　浩二(長崎大学医学部付属病院地域医療センター助教授)

パネルディスカッション:「地域を育てる小児歯科」
座長:有田信一パネリスト:川崎浩二、佐々木　洋、角町正勝、藤原　卓

コデンタルスタッフ講演会
「こころのキャッチボール－自分も大切、相手も大切－」
親業訓練インストラクター　田代恵美戸
1962年、アメリカの臨床心理学者 トマス・ゴードン博士

(1918－2002)によって始められた、親子関係を改善し、温かく健全な家庭を築き、子どものすこやかな成長を実現するためのトレーニングを基礎とした小児歯科臨床におけるコミュニケーションについての講演を行います。

昼食懇親会：会員の交流のため、昼食懇親会を開催します。

認定委員会からの報告

日本小児歯科学会認定委員　藤原　卓

1)認定医面接試験の傾向と対策(これから受験する先生へ)

はじめに

九州地方会選出の認定医委員として認定医の新規取得者の面接試験を2回行ってきました．試験自体も開始されたばかりなので，受験者にも評価者にもまだとまどいがあるようです．この文章の内容は認定医委員会で正式に議論されたものではなくあくまでも私見ですが，これから認定医を取得しようとする若い先生方の参考になればと思います．

う蝕はどうしたの？

面接試験には2年以上の経過をみた2症例の提示が要求されています．実際に受験者から提示されるのは圧倒的に咬合誘導ケースです．次に多いのが外傷で，う蝕のケースを提示する受験者はほとんどありませんでした．

確かに咬合誘導と外傷は資料がそろえやすく，長期にわたる経過をたどるので，症例として呈示しやすいのは理解できます．しかし2症例とも咬合誘導とか外傷というのはどうでしょうか？"あなたは小児歯科医としてむし歯治療はしていないの？"と，いじわるなツッコミの一つも入れてみたくなります．

小児歯科の認定医をとろうとしているのですから，どちらか1症例は小児歯科の臨床で大きな割合を占めているう蝕の管理についての症例を提示してもらいたいものです．また咬合誘導や外傷ケースでも一口腔でとらえれば，う蝕管理の必要があるわけですから，その点についても是非ともふれてもらいたいものです．特殊な症例は必要なく，日常の診療がわかるようなケースの提示をしてほしいと思います．

それで患者さんに説明できますか？

症例を提示するとき，カードやフォームにきっちりと書き込んであったり，パソコンに取り込んでプレゼン形式になっていたり，受験者によって様式もいろいろです．個人の診療所ではカルテやレントゲンは持ち出せますが，大学では持ち出せないところも多く，事情は様々です．大学は教育機関である分，コンピューターや写真器材などが比較的完備されていますので，それを利用できない人の表現能力が劣るのは仕方がないことで，そんなことはあまり採点には影響しません．

肝心なのは患者さんに見せて説明できるレベルであるかということだと思います．治療を行う前に当然インフォームドコンセントを行うわけですから，そのときに患者さんに実際に見せて納得してもらえるような質と量が必要です．提示された資料を見ていると，日常そのドクターが患者さんにどれだけの情報を提供して説明しているかが，よくうかがえます．

症例呈示の際に私が重視しているのは，治療の成否ではなくその診断です．したがって診断を下す根拠を過不足なく提示してもらいたいものです．はやりの言葉ではありませんが"エビデンス"が必要です．治療後の写真よりは，治療前の詳しい資料の方が重要です．そのために常々，日常の臨床でちゃんと証拠を残すように心がけてください

おわりに

まだまだ言い足りないことはありますが，最後にもう一つ，大学の外へ出た先生方が，認定医をとることはなかなか困難であろうと思います．もっと各大学はそういった先生方のバックアップをしてゆく必要があります．外の先生方も現状では大学の小児歯科講座に全く関係なく認定医をとることは不可能ですから，大学をもっと利用してもらいたいと思います．

2)**現在の認定医数**：平成15年4月24日に新規認定医試験が実施され、九州地方会では福岡(2名)、熊本(2名)、長崎(1名)、宮崎(1名)から合計6名を合格とした。

地方会	会員数	認定医数
北日本	571	266
関東	1622	800
中部	523	238
近畿	570	209
中四国	415	165
九州	583	237
合計	4284	1715

日本小児歯科学会　地区別会員数および認定医数(平成15年7月1日現在)

3)**その他**

1)認定医資格更新に関わる業績の共同発表人数について：原則として1業績(論文発表、学会発表とも)で申請できる認定医は5名までとする。それを超えて申請する場合は、その業績における役割分担を確認し、認定委員会で審議することとした。

2)地方会におけるケースプレゼンテーションに関わる費用について：一人につき3千円を自己負担として認定委員会が徴収し、各会場の負担額が平等になるように調整することとした。

3)平成15年度の新規認定医の面接試験は、第1回目を6月15日(日)に実施する。第2回目は10月末頃を申請締め切りとし、面接試験を12月頃に予定している。

4)平成16年度以降の認定医生涯研修セミナー開催地について

年2回の開催で、時期は9月から11月の予定です。

平成16年度　関東地区・中四国地区
平成17年度　関東地区・九州地区
平成18年度　関東地区・北日本地区
平成19年度　関東地区・中部地区
平成20年度　関東地区・近畿地区

広報委員会からの報告

日本小児歯科学会広報委員　品川　光春

広報委員となって約1年半が経過して、残りの任期もあと半年余りとなりましたが、現在までの委員会の活動状況をご報告いたします。委員長は広大教授の香西先生で委員としては大歯の嘉藤助教授、広大講師の天野先生、開業医の谷先生、山崎先生、佐野先生と私の計７名で構成されています。委員会は日本小児歯科学会開催期間中に過去2回、別途広大で１回の計3回開催されています。現在の広報委員会が抱えている最大の事業は学会のホームページの充実です。小口会長の意向もあり、日本小児科学会のホームページを手本に、小児歯科学会に関する内容の充実した最新情報をリアルタイムに出していくためにはどうすればいいかを様々検討しています。現在委員会で決定し、理事会でも承認されたのはホームページの外注化で、業者の選択も決まり、今後具体的な作業に入っていくようになります。それと各地方会のホームページについては、本会のホームページの中で作らず、各地方会独自に作成してもらって、本会とリンクさせる予定です。ただし、地方によっては、独自に作成できない地域もあるかもしれないので、その際は原稿(できるだけメールで)を現在地方会のホームページを担当している谷先生の方へ送ってほしいとのことです。九州地方会の場合、事務局は大学が交代で担当していますので、大学への負担が増えることも考えられますが、九州地方会幹事会では委員会に対し、具体的に掲載する内容を明示してほしいという要望が出されており、次回の委員会でその点も含めて、さらに検討したいと考えています。

もう一つの事業として、対外的なアピールのためにポスターの作成を検討しています。過去の委員会で幾つかの案も提案されていますが、なるべく歯科医院はもとより市町村等の行政機関や学校、保育所、幼稚園等どこでも貼ってもらえるためにはどのような内容がいいのか、また作成方法はプロに依頼するのか(費用の問題)など現在検討中です。

現在の広報委員会の活動の概略をご報告いたしましたが、委員が全国に散在していることもあり、なかなか一同に会して協議する機会が少ないため、事業の進捗が遅いようにも思われるかもしれませんが、それぞれ難しい問題も包含していることもあり、今後それらも少しずつクリアしていくと思いますので、今後の広報委員会へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、日本小児歯科学会広報委員会ではホームページを開設いたしましたのでご覧下さい。

http://home.hiroshima-u.ac.jp/pedo/jspd/default.htm

地方会幹事選出検討会からの報告

森主宜延、　品川光春

昨年度から瀬尾会長のご指示で、現在の地方会幹事の選出方法を見直してほしいという要請があり、今日まで熊本の入江先生、宮崎の旭爪先生と私の３名で様々に検討してきましたので、その結果についてご報告いたします。

現在の問題点としては、次のようなことがあげられます。

1. 幹事の数がやや多く、幹事会に一度も出席しない幹事がいる
2. 本会役員が幹事になっていないケースがある
3. 各地区からの幹事の選出方法が異なっている
4. 大学への依存が高まっているので各大学からも教授(常任幹事)以外にも幹事を出し、活動してほしい

等があり、これらを中心に多角的に検討を加えてきました。その結果、以下のような会則の変更が幹事会で了承され、11 月の地方会総会で了承されれば、次年度より施行されます。

会則の一部改正と付則追加について

役員選出方法の確立に基づいて下記のごとく会則の一部改正および付則の項を追加いたしました。

(現行)

第5条　1.　本会に次の役員を置き、役員会を構成する。
会長　1名、副会長　2名、幹事　若干名(うち会長、副会長、庶務幹事、会計幹事、小児歯科主任教授、次期大会長ならびに次々期大会長を常任幹事とする)、監事　2名

2.　役員の任期は、2カ年とする。ただし再任は妨げない。なお、役員は九州地区ならびに沖縄県に居住するものとする。

(改正)

第5条　1.　本会に次の役員を置き、役員会を構成する。
会長　1 名、副会長　2 名、常任幹事　5名(・庶務幹事、会計幹事、広報幹事は本部役員幹事とする・次期大会長、地方会推薦理事、本会学会長推薦理事は特別幹事とする・大学代表幹事と県代表幹事は一般幹事とする)、監事　2 名(議決権は有さないものとする)

(追加、内規)

1.　学会幹事に関する事項

(1)　一般幹事は、大学代表幹事(5 名)と県代表幹事、福岡(2 名)、長崎(1 名)、熊本(1名)、大分(1 名)、佐賀(1 名)、宮崎(1 名)、鹿児島(1 名)、沖縄(1 名)の計14 名とする。

(2)　幹事選出にあたっては、大学代表幹事は各大学の推薦による。また、各県代表幹事は各県下所属の会員による推薦によって選出する。ただし、推薦の結果や各県の事情によって決定に至らなかった場合は学会長に一任とする。将来においては、各地域において推薦された人を対象として選挙を実施する方向が望ましい。

(3)　幹事としてその任に対して十分にその責任を遂行できないと判断された場合は、学会長は注意勧告することができる。さらに、改まらない時は役員の合意を得て、推薦団体に対して責任を果たせる人選を依頼することができる。

2. 地方会予算に関する事項

（1） 地方会本会からの学会援助金は一律 40 万円とする。その内の 20 万円は 4 月初旬、残りの 20 万円は 8 月中旬までに支給する。

（2） 毎年本会の責任において、10 万円程度の積み立てを実する。

（3） 積立金は、地域において資金不足のとき、また、臨時に費用の必要なとき、役員会の承諾を得てこれを補助予算として執行する。

（4） 歯科医師の当日会費は一律 5,000 円とする。

アンケート結果の報告

アンケート委員会　委員長　橋本敏昭

九州地方会の今後の改革と発展のために、本年度全会員に向けてアンケート調査を実施したので、その結果の概要をご報告申し上げます。アンケート回答数は全部で86件でした。この結果は一部の会員のみしか当学会に関心がないということを裏付ける結果となりましたが、逆に回答をいただいた先生方にはとても熱心に当会のことを考えていただいていることに感謝申し上げます。九州地方会に対する期待は保険問題への取り組みが55%と最も多く、最近の診療報酬の改定への影響が窺えます。将来、地方会で要望を集約し親学会の方で検討していただくようなシステム作りが必要かもしれません。九州地方会の運営については、大学と開業医との共催が75%と圧倒的に多く、開業医中心は7%と少なく、今後も大学の力を借りながら運営してゆく方がよいという意見が多かった。学会のテーマとしては咬合誘導、予防，歯内療法、医療事故を希望される方が多かった。学会に参加されない理由は時間的理由が76%と最も多く、最近では医院経営も苦しく休んでまではなかなか参加できないという意見があった。地方会学会開催が今後も毎年必要だと思う人は76%、年に1回開催が64%と圧倒的に多かった。地方会と他大会との同時開催は68%が考えられるとのことで、矯正学会54%及び口腔衛生学会33%との同時開催希望が多かった。九州地方会の位置付けの中で最も重点が置かれているものは自己研修の場58%、情報交換の場37%、で意外に少なかったのはスタッフ教育の場5%で、一生懸命やってきたにもかかわらずこの結果は今後検討の余地がありそうです。一般の発表形式については口演発表のみ41%、展示発表のみ52%と意見が真二つに分かれております。かといって混合案は4%と少なく迷うところだと思います。当日会費は5000円が55% と最も多く、懇親会費は3000円45%と5000円41% の希望が多く、時間帯は学会昼食時34%、学会終了後39%と意見が分かれております。学生会費を設けることについては75%の方が賛成し、料金は1000円が53%と最も多かった。学会開催日は日曜日が46%で希望が最も多かった。地方会として市民向けポスターやチラシ・パンフレットを発行し啓発活動を行うことに75%が賛成ということです。地方会の案内やプログラムの広報のし方については、歯科医師会の広報を利用40%、インターネットを利用36% が多く、ポスター15%やチラシ3%は意外に少ない結果となった。認定医制度については現行制度でよいと考えている人が31%しかなく、様々な不満や問題点を抱えているという意見をいただいております。あとの設問、ご意見等に関しましては紙面の都合上割愛させていただきました。最後にこのアンケート結果が九州地方会の発展に少しでも役立つことを願っております。

第 20 回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会決算報告書

第二十回日本小児歯科学会九州地方会　会計　勝俣真里

第 20 回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会の会計報告並びに 20 周年記念事業会計報告は、去る平成15年7月17日(木)の臨時役員会において、監査並びに役員会の承認を受けましたので、下記のごとくご報告いたします。

A)収入の部

1)当日会費　歯科医師	1305000 円
衛生士	142000 円
2)20 周年祝賀会会費	261000 円
3)学会援助金　学会本部	500000 円
父兄後援会	50000 円
県歯科医師会	50000 円
市歯科医師会	30000 円
4)協賛・広告	1320000 円
5)大学より借り入れ(小児歯科)	400000 円
6)雑収入(抄録代)	3000 円
7)利息	18 円
収入合計	**4061018 円**

B)支出の部

1)印刷代(封筒・プログラム等)	734254 円
2)送料・通信費・宛名ラベル	193623 円
3)学会・役員会会場使用費	180714 円
4)学会会場設営費	446040 円
5)講師謝礼・交通費	676600 円
6)役員会・支援者弁当代	58560 円
7)20 周年祝賀会諸費	326025 円
8)文具・雑費	20161 円
9)人件費	129200 円
10)事務連絡費	100000 円
11)大学への借入金の返金	400000 円
支出合計	**3265177 円**
A)収入—B)支出	**795841 円**

第 20 回日本小児歯科九州地方会大会余剰金として795841 円を事務局会計へ納入いたしました。

20周年記念事業会計報告

20周年記念事業　会計　久保山博子

A)収入の部

1)協賛48社	1130289円
2)日本小児歯科学会九州地方会本部より借り入れ	50000円
3)利息	8円
収入合計	**1180297円**

B)支出の部

1)通信費	104435円
2)印刷費	799680円
3)文具費	3927円
4)日本小児歯科学会九州地方会本部より借り入れ返金分	50000円
5)昭和薬品化工KKへ返金	10315円
支出合計	**968357円**

A)収入—B)支出　211940円

20周年記念事業余剰金として211940円を事務局会計に納入いたしました。

第42回日本小児歯科学会大会および総会のご案内

第42回日本小児歯科学会大会および総会は、福岡歯科大学成育小児歯科学分野の担当で、下記の要領にて開催いたします。多数の会員の皆様にご参加いただきたく、ここにご案内申し上げます。

大 会 長:本川　渉　　準備委員長:尾崎　正雄
大会期日:平成16年5月20日(木)・21(金)
会　場:福岡国際会議場(〒812-0032 福岡市博多区石城町2－1　TEL:092-262-4111)
メインテーマ「育てよう未来の地球人」
大会内容:
1. 総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月20日(木)
2. 宿題報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月20日(木)
「おしゃぶりの功罪」　藤田保健衛生大学医学部歯科口腔外科講師　今村基尊　先生
3. 特別講演Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月20日(木)
「味覚と嗅覚のヴァーチャルな世界」
九州大学大学院システム情報科学研究院電子デバイス工学部門　電子機能材料工学講座　都甲　潔　教授
4. 特別講演Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5月21日(金)
「子育てとヘルスプロモーション」
福岡大学医学部長(小児科)　満留昭久　教授
5. シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・5月20日(木)・21日(金)
①「矯正歯科医から小児歯科医へのメッセージ」
②「カリオロジーの近未来」
③「遺伝子から見た歯の形成」
6. 歯科衛生士セミナー・・・・・・・・・・・・・5月20日(木)
7. 学会賞受賞講演・・・・・・・・・・・・・・・・5月21日(金)

第22回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会のご案内

メインテーマ:『小児期の顎の成長発育を考える』
担当:九州歯科大学小児歯科学講座
大会長:梅津　哲夫
準備委員長:牧　憲司
顧　問:木村　光孝
日　時:平成16年10月17日(日)
場　所:総合保健福祉センター(北九州市小倉北区馬借)

医局紹介

福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野

当教室は、1973年11月に、吉田穣教授のもとで西日本地区において初めての小児歯科教室として開講しました。当時の医局員は3名、研究補助員1名でのスタートでした。1974年3月には待望の小児歯科診療室が完成し、現在の診療体系が確立されました。同年7月には現在の本川渉教授が米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部（以下UCSFと略す）での留学を終え帰国し、1975年5月より福岡歯科大学の1回生に対する小児歯科学の講義が開始されました。当時の福岡市はむし歯の洪水状態で、患者さんに数か月の診療待ちをして頂くほどでした。1990年3月、17年間教室を主宰されてこられた吉田教授が退職され、同年4月より本川教授が本教室の主任教授として就任されました。２１世紀となり少子高齢化を迎え、以前のように患者が押し寄せることもなくなり、教室としても新たな診療および研究形態に移行する時期となりました。ちょうど良い時期に、本教室は2001年4月より矯正歯科学分野と障害者歯科学分野との講座統合化が行われ、小児歯科学講座から成長発達歯学講座成育小児歯科学分野と名称が変更となり、3つの分野が協力して患者さんの治療が行える体制が整ってきました。勉強会も週一回の症例検討会に加え、定期的に矯正歯科学分野と障害者歯科学分野との合同勉強会も開かれるようになり、臨床面で幅と質の向上を図っています。また、本分野は海外との交流が深く、1978年と1986年の2回各半年間、UCSFのモリス教授が客員教授として教室員の指導にあたられました。そのほかにも1993年には韓国全北大学歯科大学校の白秉周教授が半年間、客員教授としておみえになられたのをきっかけに、同教室との姉妹関係を結び、2年毎の合同研究発表会を行っています。研究面では理工学的研究、細胞生理学的研究、生化学的研究、疫学的研究ならびに歯科心身医学的研究が行われています。小児歯科材料に関する研究が中心ですが、最近では、生化学や生理学教室の指導のもとで、細胞レベルまで深く掘り下げて行く

ようになりました。8020 運動の出発点は小児歯科であることを念頭に、日本の将来を支える子供たちの健康を守るためにも、小児歯科の必要性を学生や研修医に教育し、臨床研究を行う必要があると考えています。これからも地域医療のために貢献したいと考えておりますのでご支援の程宜しくお願いいたします。また、2004 年5月には、本教室の担当で第 42 回日本小児歯科学会大会および総会を福岡国際会議場で開催いたします。地方会の皆様にとっても有意義な学会にしたいと教室員一同がんばっておりますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

医局員：教授　本川　渉（病院長）、助教授　尾崎正雄、講師　久保山博子、小笠原靖、助手　馬場篤子、木山純子、医員　比嘉　和、葉山康臣、泉福浩志、柏村晴子、専攻生　豊村純弘、夏イエ、大学院生　林　秀、福島秀文、萩尾真紀、何　陽介、非常勤講師　木村光孝、藤原　卓、瀬尾令士、手嶋文史、久芳陽一、石井　香、名誉教授　吉田　穣

韓国全北大学歯科大学校との国際交流

九州地区スタディーグループ紹介

福岡小児歯科集談会

昭和 55 年 10 月に発足しました九州で初めての小児歯科の集まりである九州小児歯科集談会から平成 14 年に名称変更をいたしました。本会は、小児歯科に関する研究・報告並びに臨床上の諸問題を討議し、解決に努めると共に、会員相互の親睦を図ることを目的としています。現在会員数は 67 名です。年に 2 回の講演会ではスタッフ対象の会と Dr 対象に分けておこなっています。前回のスタッフセミナーでは「出会いのおしゃれ」と題したテーマで接遇について講演していただき、87 名の参加者があり大いに盛り上がりました。Dr 対象に行いましたバズセッションでは、「診療費について」「キャンセル対策について」「スタッフ対策（教育）について」の 3 つのテーマについて会員の先生方に意見を述べていただき、その後、他の先生方との活発な意見交換が行われました。また、会報「こだま」を発行し、現在は 22 号を数えるまでになりました。現在は子供の歯について保護者に啓蒙する小冊子「Q&A」を企画中です。

小児歯科集談会として地方会大会を過去に 2 度ほど担当していますが、運営費・マンパワーや時間の問題など単独での主催には難しいものがあります。今後各県で持ち回りの場合、各スタディーグループも同様の点で苦慮することが多いと思います。また大学側も大講座制などでスタッフの数が減っているとのお話しもありますので運営が難しくなってきているようです。本部でも、いろいろな対策をご検討していただいているようですので、よろしくお願い致します。

熊本B. P. C小児歯科研究会

本スタディーグループは平成 5 年に発足して以来、認定医所得、更新のための研修の場として、また日本小児歯科学会をはじめ関連学会での発表、並びに学会誌当への投稿発表等を活動の場としている。グループの学習テーマは日常の臨床において発生した諸問題に対しての症例組織学的検討をはじめとした基礎的知識を加えた学習を中心に積極的な学習を行っている。また、会員相互の意見交換の手段とし、また、一般の人たちへの安全に答えるべくホームページを開設している。現在、会員数 25 名、その内、認定医 16 名を数えている。

代表　　瀬尾　令士
幹事　　新村　健三
会計　　大久保　和之

事務局
〒861-4202 熊本県下益城郡城南町宮地 530-3
瀬尾歯科クリニック内
TEL　0964-28-7157　FAX　0964-28-7158
HP http://www.seo-dental.com/bpc/kaisoku.htm

熊本小児歯科懇話会

平成元年7月1日に第1回例会を開いて以来、本年6月の第41回例会まで瞬く間に時間が流れ、時代は21世紀に入りました。この間、小児歯科学会九州地方会の多くの先生方

に講演をお願いするなど大変お世話になりました。「小児に関する地域歯科保健の発展」を目的に有志が集まって発足してから15年。小児歯科及び小児保健に関心のある方々との情報交換、連携、親睦など、小児を取り巻く人々の接点を求めて発足した会です。熊本の各地域に根ざし、子供たちに関する歯科保健、医療、その他の問題をざっくばらんに語り合う会、各地域の情報を交換しあう会、そして何よりも会で話し合った事柄を臨床や行動を通じて子供たちに還元して行ける、更に子供達を取り巻く環境をより良い方向へ動かして行ける場でありたいと続けてきたつもりです。

九州地方会のリーダーとなる先生方の顔ぶれもだんだんと若返り、今後ますますの発展を期待しています。当会もこの春からは逢坂亘彦先生が会長に就任し、運営委員も若干ですが若返り、また新しい気持ちでスタートを切りました。今の時代、子供たちが育っていくには環境が悪化しているようなことばかりが取りざたされていますが、小児歯科という場を通じて子供達が育って行く間に少しでも良い影響を与えることができれば・・・・と理想を高く持ちつつ、足元を見ながら一歩一歩着実に前進していきたいと思っています。今後ともよろしく御厚誼いただきますよう御願い致します。　（入江記）

宮崎小児歯科臨床懇話会

発足して、かれこれ12年くらいは経ったでしょうか…。当時、宮崎市在住の日本小児歯科学会会員が集まって勉強会を始めました。紆余曲折はありましたが、年2回、宮崎市の西橘通りで行われるフィールド研修会以外は、真面目に月1回の勉強会を続けてまいりました。この程、宮崎県は平成13年度3歳児歯科健診結果が全国で最下位になったことを受けて、何とかこどもの口腔環境を改善するために私たちにも出来ることはないか、現在、具体的な方法を模索中です。本年度より始めた会員間のメーリングリスト上で激論をかわすことも度々で、いい意味で刺激を与え合っています。

学会活動としては、1996年第14回日本小児歯科学会九州地方会大会を私たちの会が中心になって、宮崎市にて無事開催できたこと。そして、第15回地方会では、会員全員で調査したことを発表できたこと、くらいですね。皆で国際小児歯科学会へ行こうと少しずつ月々貯金はしていますが、なかなか実現しません。

先にも書きましたが、宮嵜の乳幼児の口腔保健状態がなかなか良くならないことで、これからは地域の小児科医、産婦人科医、そして保健師などの子育てネットワークへの参画も視野に入れて、活動を広げて行きたいと考えています。

地方会会員の皆さん、よろしくお願いします。

宮崎県障害者歯科懇談会　会長　安部喜郎

当会の設立は、1998年1月、福岡の緒方・柿木両先生の来宮に由来します。当時、県下の障害児・者に対する歯科医療は開業歯科医師による個々の対応に委ねられていましたが、宮崎市郡東諸県郡歯科医師会では地域障害者歯科医療センター構想を睨んでの環境整備を進めており、両人の講演はその一環としての事業でした。緒方氏らの講演に集った県下の有志20人程により、翌月より本格的に定期的な会合を持つことになりました。

会合では、市内養護学校を対象としたアンケート調査を皮切りに、「障害者の生の声を聴く」企画として、日本リュウマチ友の会、日本ALS協会、障害児通園事業者、知的障害者厚生施設等々、数多くの障害に関係する方々をお招きして実情及び問題点などを話し合いました。それらと併せて、宮崎市内の障害児・者に対する診療対応や設備実態の巡回調査を行って、宮崎市郡東諸県郡歯科医師会が予定する障害者歯科協力医体制の確立のために支援を行ってきました。その後同会はそれらを総合的に取りまとめ、宮崎市保健所内の障害者歯科室と地域医療センターの必要性を宮崎市に対して要請するに至ったのでした。

平成14年11月より、宮崎市の支援の下に宮崎市郡東諸県郡歯科医師会立の「宮崎歯科福祉センター」が開設され診療を開始しました。さらに、平成15年2月より、全身麻酔下集中歯科治療が県下ではじめて定期的に行われることになりました。今後、当施設を頂点とした新しい支援体制を、宮崎市だけでなく県内全域に作り上げて行かなければなりません。また、当センターより半年遅れて、隣接地に未就学児を対象とした療育施設「宮崎市総合発達支援センター」も開設されました。今後リンクすることにより更に充実した体制を築くことになると期待しています。

このような役割を演じてきた当会は、今後も更なる内容の充実と円滑なシステムの構築に寄与していく所存です。

佐賀小児歯科研究会

1999年に、佐賀県内の小児歯科認定医の集まりとして発足して以来4年目を迎え、現在は日本小児歯科学会に籍を持つものの勉強会となりました。活動内容としては、2～3ヶ月に1回の割で例会を開催し、外部講師による講義や、全員のレベルアップを計るための情報交換、テーマを決めての勉強会などを行っていますが、将来的にはこの研究会を通して体外的な情報発信が出来るような会になればと考えています。学会活動としては、平成14年11月小児歯科学会九州地方会（福岡市開催）において会員の梅津哲夫先生がシンポジストの一人として発表する機会を得ましたので、佐賀県における小児う蝕の現状とその背景を探るというテーマで、幼稚園保育園の保護者へのアンケート、一般開業医へのアンケートなどを行い、いくつかの分析を行いました。そしてその結果を「お子様の歯の健康アンケート調査報告書」として、御協力いただいた幼稚園、保育園へ冊子として配布し、保護者の為にはリーフレットを作成しました。これにより少しでも啓蒙できればと思っております。また、今年度はその調査によって明らかになってきた生活習慣の問題や、定期健診について取り組んでいるところです。

まだまだ学会活動と呼べるところまでは行っておりませんが、これからはもっと参加できるように体制を整えたいと思っております。

鹿児島小児歯科臨床研究会　会長　濱崎栄七

現在、鹿児島小児歯科臨床研究会は、休会中です。